

中(最石鹽ニ富ム地層)マイシクロレスタス、アンタイクスヲ發見セシハ  
大イニ石鹽陸地ニ因ルノ説ニ附合スルカ如シト此獸ハマムマリヤ  
ノ最下ニ位スルマーシユビアノ一ニシテ陸地ニ生活スル動物  
ナリ

(此稿未完)

○北海道幌內鐵道ノ報告

在東京 遼邑容吉述

本年避暑賜暇中余ハ奥州釜石鑛山北海道幌內、郁春別及ヒ岩內等ノ  
石炭山ヨリ幌內、鐵道線路ヲ巡視セリ而シテ此ノ巡回ノ途次工業上  
ニ係リ余ノ耳目ニ觸レ心ニ感シタルモノヲ記シテ公衆ニ告ケ以テ  
利益ヲ計畫セント欲スルモノ頗フル多シ然リト雖ヒ彼ノ幌內及ヒ  
岩內等ノ石炭山報告ノ如キハ我カ會員張房健君余輩ト俱ニ該炭山  
ヲ巡視セラレタルガ故ニ必ラス之カ報告ヲ同氏ヨリ本會ニ近キニ  
寄贈セラルヘシト信ス而シテ此ノ鐵道報告ノ如キモ亦タ會員佐藤  
成教、江森盛孝、屋代傳ノ三君現ニ其職ニ居ラルレハ別ニ詳細ノ報道

モアルヘケレハ余ハ唯見聞ノ一班ヲ記述スルノミ請フ諸君幸ニ余ノ粗漏ヲ咎ムル勿レ

此ノ鐵道ノ設ケタルヤ彼ノ有名ナル幌内、郁春別等ノ炭山ヲシテ札幌ヲ通過シ小樽港ト接續セシメ該炭山ヨリ採出スル所ノ石炭ヲ直チニ船積ニナスノ便ニ供シ併セテ札幌小樽ノ兩市街間諸貨物運搬ノ用ニ備フルモノナリ而シテ此ノ全線ノ長サハ五拾七哩ニシテ此ノ内札幌小樽間貳拾貳哩餘ハ已ニ明治十三年十二月ニ開線セリ又タ右ニ延接スル所ノ札幌膽別間十三哩ノ土工ハ會員佐藤、江森屋代ノ三氏之レニ從事シ既ニ去ル十月中其ノ工業ヲ竣リ三氏共ニ歸京セラレタリ鐵道敷設ノ初點ハ手宮棧橋ノ一端ニアリ而シテ最初凡ソ拾丁間ノ線路ハ手宮ノ市街ヲ浴ヒ畧ホ平坦ノ地ナリ夫ヨリ次第ニ低坡度ニ登リ小樽街ノ裏面ニ迂回シ往シ凡ソ壹里ニシテ復タ本街道ト會ス此ノ間ニ數箇所ノ開鑿貳箇ノ隧道及ヒ木造ノ棧道（高サ平均貳拾四尺）等（長サ三百尺）ア

リ

右棧道並ニ一箇ノ隧道間ニ小樽停車場アリ此ノ構造ハ美麗ナル木造  
 ナリ場内別ニ待合所ノ設ケナシ唯五六ノ腰掛ヲ場ノ一隅ニ駢列シテ  
 以テ來リ待ツモノ、便ニ備フルノミ荷物取扱所ハ別室ニアリ又々此  
 ノ停車場ノミナラズ各所ノ停車場俱ニ平臺プラットホームノ設置ナシ  
 總テ停車場ヲ建設スルニ當テ最モ丁寧ナル觀察ヲ下サ、ルヘカラサ  
 ルモノハ場内區畫ノ方法ヲ以テ第一トシ平臺プラットホームノ高サ並ニ巾之ニ亞ク  
 若シ各室設置ノ方法其ノ宜シキヲ得サルハ常ニ諸人ノ不便ヲ來ス  
 多シ又々平臺ノ高サ列車ノ底床ヨリ高下スルト定度ニ過クレハ畜  
 ニ荷物積卸シ並ニ諸人ノ乗降ニ不便ヲ與ユルノミナラス遂ニ不測ノ災  
 害ヲ醸生スルヲアリ然ラハ則チ場内區畫ノ良否及ヒ平臺プラットホームノ高サ並ニ幅  
 ノ適否バ鐵道架設ニ方リ經濟上最モ緊要ナル部分ヲ占有セルモノト  
 云ハサルヘカラサルモノナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ此ノ鐵道附屬各所

明治十五年一月

ノ停車場構造ノ方法ハ經濟ノ一點ヲ缺クモノト論定セサルヲ得ス然  
 ト雖<sup>レ</sup>此方今ノ景況ニテハ貨物ノ運搬並ニ諸人ノ往來俱ニ甚々僅少ナ  
<sup>プラットホーム</sup>レハ平臺ノ設置ナキモ或ハ大ニ損害ナカルベシト思考ス唯後來瀛車  
 往復繁盛ニ至ルキハ直チニ<sup>プラットホーム</sup>平臺ヲ置設セスンハアルヘカラス而シテ  
 其ノ高サ並ニ幅ノ尺數ニ至リテハ今爰ニ余ノ口喙ヲ容ル、ヲ要セサ  
 ルヘシ  
 鐵道線路ハ小樽停車場ノ近傍ニ於テ本街道ト相會シタル所ヨリ錢函  
 驛マデハ多少該街道ノ左右ニ觸出スルト雖<sup>レ</sup>此之ヲ概スルニ畧ボ此街  
 道ニ沿フテ架設セリ而シテ此ノ間ニ<sup>アフリ</sup>淺里ト稱スル一小村落アリ線路  
 ハ人家ノ軒下ヲ通過シ瀛車ハ僅ニ之カ衝突ヲ避ルノミ實ニ危險ト謂  
 フヘシ他日運搬ノ事業増進シ從テ瀛車進行ノ速度方今仕用スル速力  
 ハ一時間拾貳里ノ低度ナリヲ増加セントスルトキニハ村落或ハ市街  
 中ニ敷設シタル線路ノ兩側ノ牆垣ハ一層ノ注意ヲ加エサルヲ得ス若

シ然ラサルキハ誤テ貴重ノ人命ヲ亡フコト甚ナシトセス戒シメサルヘ  
ケンヤ

因ニ曰淺里錢函間ニハ彼ノ有名ナルカモ井コタン神威古潭ノ嶮アリ巖石兀立高  
サ數十丈遙ニ之ヲ車窓ヨリ望見スレハ巍々タル城壁ノ雲間ニ直立  
スルカ如ク前面ノ蒼海ト相映シテ眞ニ一對ノ壯觀ヲナシ羈中ノ鬱  
ナ慰ムヘシ而シテ漸ク麓ニ近ケハ其ノ頂上ヲ仰視スヘカラス唯大  
岩ノ頭上ヨリ墮落スルカト疑ヒ乘客ヲシテ屢々寒心セシメタリ嗚  
呼是レ眞ニ天造ノ一勝地ニシテ余カ未タ曾テ見サルノ好風景ナリ  
蓋シ「カモ井コタン」トハア井ノ土人語ニテ「カモ井」トハ造物者即チ人力ノ得  
テ及フヘカラサルモノ、總稱ナリ而シテ「コタン」トハ峻嶮ト云フ意  
ナルヘシ尙ホ此外ニ北海道中諸所ニ神威古潭ト稱スル地多シ土人  
ハ皆ナ之ヲ尊崇シテ神ナリト云フ一笑スヘシ

錢函札幌間ハ廣漠タル濕地（東北ノ地方ニテハ總テ濕地ヲ稱シテ谷地ト云フ其ノ泥濘ノ淺キモノハ僅ニ壹貳尺

ニ過キスト雖ニ深キモノニ多ク畧ホ平坦ノ地ナルカ故ニ少許ノ開鑿  
 至リテハ丈餘アリト云フ）及ヒ築堤アルノミナレハ陂度モ從テ低ク且ツ直線ノ區多シ然ラハ則  
 チ瀛車ノ進行ニ向テ一モ妨害スルモノナキ理由ナルモ之ニ反シテ其  
 ノ速度甚タ高カラス加之瀛車ハ船舶ノ洋中ニ漂泊スルカ如クロイリン轆轉ノ  
 動搖ヲ生シ往々海病ヲ患フル乘客アルヲ見聞セリ依テ余ハ此ノ動搖  
 ノ因テ起ル所以ヲ左ニ畧陳スヘシ

（以下次號）

○蒸氣鐵瀛室ノ損害 在東京 工學士 原田虎三演說

大凡百般ノ工事其ノ區域廣漠タリト雖ニ一トシテ機械ノ力ニ籍ラサ  
 ルモノ幾ント希ナリ瀛船ノ雄飛シテ萬里ヲ通航スル瀛車ノ快走シテ  
 四境ヲ來往スル等其ノ他殖産製造ノ如キ皆ニ機械ノ力ヲ運用シテ以  
 テ人力ヲ助ク然レニ機械ハ他ノ動力ヲ自在ニ活用スルノ具ニ止マリ  
 決シテ動力ヲ産出スルモノニアラス而シテ其ノ動力ハ通例水力風力及  
 ヒ温熱即チ蒸氣力ノ三種ニ外ナラスト雖ニ風勢ハ日々緩急ノ差違ア